

## 平成19年度長崎南山高等学校自己評価表

学校教育基本方針	カトリック精神の下に健全なる青少年を育成する。
学校教育目標	人間の尊厳のために
重点努力目標	レベルアップしよう学力とマナー

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成 果 と 課 題	
				年度末			
<b>1 学校経営</b> <b>全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価</b>							
(1)	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	「高い人格・広い教養・強い責任感」に則った適切な目標を設定する。	3.0	3.0	おおむね達成されている。これからも目標の具現化に努めていきたい。
				今年度の努力目標「レベルアップしよう学力とマナー」の具現化に努める。	3.0		
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	進学・部活動・生徒指導の三本柱の学校経営ビジョンを全職員が共有し、教育実践に努める。	2.6	2.5	昨年よりは改善の兆しが見える。学校経営方針の相互理解と生徒・保護者だけでなく、地域へのアピールももっと必要である。
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	2.5		
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、目標達成のための教育活動を展開する。	2.7	3.0	おおむね達成されている。学年間のまとめ、協力体制もできているので、今後とも職員間の共通理解をさらに深めていきたい。
				学年会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	3.2		
(4)	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	2.8	2.8	おおむね達成されている。個人面談や保護者との面談日も設定し行っているが、生徒の主体的・意欲的な活動にまでつなげられていない。工夫をしながらこれからも努力していきたい。
				個別面談を学期に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	2.8		
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	2.7		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成果と課題	
				年度末			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>							
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	クラスの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	2.8	2.6	昨年の反省を生かして今年度は工夫と努力のあとがみられた。この取組をさらに検証し、目標の達成を目指したい。
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	2.4		
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画（シラバス）を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	3.0	2.8	昨年度の反省を生かし、「わかる授業」「力がついた授業」「自分に自信が持てる授業」を共通理解として、各自が授業力アップを目指した結果、どの項目も少しずつではあるが、実を結びつつある。せっかく作成しているシラバスを十分に活用し、生徒にとって、さらにわかりやすい授業へと改善していきたい。
				基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	2.8		
				生徒の自主的な学習意欲を喚起するため、導入・展開に工夫した授業を行う。	2.8		
				わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を定期的に実施する。	2.7		
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。	2.8	2.6		
			評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	2.4			
(3)	総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	生徒に身につけさせたい力を明確にし、年間計画に基づいて各学年のねらいに沿った学習活動を展開する。	2.6	2.2	年間計画とその学習活動については、まずまずの評価であるが、発表の形ややり方、時間については検討の余地がある。
				各学年ごとの主題を設定し、年1回発表会を実施する。	1.8		
(4)	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	2.1	2.7	生徒会活動・学校行事については、おおむね達成できている。ホームルーム活動については、事前準備等なかなか思うようにできないため、自己評価は低い。ホームルーム担当者自身へのエールととらえたい。
		生徒会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。	3.0		
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	3.0		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成果と課題	
				年度末			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>							
(5)	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員であいさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	8時20分以降の登校者をゼロとし、出席率99%以上を目指す。	2.8	2.9	おおむね達成されている。挨拶に関しては、大いに満足できるレベルにあるが、遅刻・欠席者が昨年より若干多くなってきているのが気にかかる。スクールカウンセラーとの定期的な相談もできるようになったので、適切な指導を心がけたい。
				挨拶や礼儀、容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	3.0		
				悩みを抱える生徒の早期発見に努め、適切な教育相談を行う。	2.8		
(6)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	国公立大100名・私立大430名の現役合格を目指し、その目標達成のための教育活動を展開する。	3.1	2.8	昨年は国公立大学60名、私立大学300名の現役合格を目指し、ほぼ達成できたので、今年はハードルを上げて努力してきた。現役生だけでは目標達成はかなわなかったが、国公立大学95名合格は、良く健闘してくれた。今後、キャリア教育への意識も高めるよう努力していきたい。
				進路選択に役立つ情報を系統的に提供する。	2.7		
				進路実現に向け、模擬試験や検定試験、講演会、三者面談等を計画的に行う。	3.0		
				職業観・勤労意識を醸成するためにキャリア教育を推進する。	2.4		
(7)	読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	教科を通して出来るだけ読書の機会を提供している。	2.3	2.7	図書館活動を通して生徒が良く本を読むようになり、本の貸し出し数も増えてきた。教科を通しての読書には、まだまだ工夫の余地がある。
				図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図る。	3.1		
(8)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・養護教諭・分掌等の連携を密にした指導を行う。	3.0	2.6	生徒の心身の健康について、安全確保について、交通安全教育に関しては、おおむね達成できている。食育に関しては、運動クラブの生徒とその保護者には浸透しているが、一般の生徒と部活動に携わっていない職員には認知されていないようだ。様々な機会を通して、「食育」の実践を図りたい。
				安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	2.9		
				全校集会、ホームルーム指導を通して、交通安全教育や安全衛生教育を徹底する。	2.5		
				心身の健康づくりを推進するため、「食育」の実践を図る。	2.2		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成果と課題	
				年度末			
<b>2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価</b>							
(9)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	2.7	2.7	十分とはいえないが、毎朝の「朝の心」や「宗教」の授業を通して人権尊重の精神を啓蒙することができている。
(10)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援を行う。	2.8	3.0	昨年度は、部活動への積極的な参加と学校生活の満足度、学習との両立への支援の評価が低かったが今年度はおおむね達成できた。文化部の活動も少しずつ盛んになってきたので、さらに盛り上げていきたい。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション力等のたくましい人間力を育む。	3.2		
(11)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア意識の高揚を図る	ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励する。	2.4	2.5	生徒会や家庭科の授業を通して、積極的にボランティア活動に取り組みさせてきた。一部の職員しか参加していないため認知度が低く評価が上がっていないのではないかとと思われる。
				施設等への訪問活動や環境美化などの身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	2.6		
(12)	資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定等に果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	3.1	3.1	おおむね達成できている。さらに英検・漢検へのチャレンジを通して学習意欲の喚起につなげたい。
<b>3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価</b>							
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	2.7	2.7	まだまだ改善すべき点は沢山あるが、昨年よりは評価は上がっている。転勤がないため、分掌の交代でそれぞれの役割分担を果たせるよう努力していきたい。
				校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	2.7		
				分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	2.8		
(2)	各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	2.5	2.5	昨年はあまりうまく機能していなかったが、少しずつではあるが、今年は委員会を活用できるようになった。さらに努力していきたい。
				各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	2.5		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成果と課題	
				年度末			
<b>3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価</b>							
(3)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	2.5	2.1	校内研修も年5回はしており、研究授業も行っているのに評価は低い。なぜなのかその原因を追求して、記憶に残るものにしていく必要がある。校外研修に関しては、今後でかけられるような環境整備が課題である。
				指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年1回以上行う。	2.0		
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	1.8		
(4)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会等で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	1.8	1.8	授業の振り替え等の為、制約があるのでなかなか研修への参加ができていない。今後の課題である。
<b>4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価</b>							
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	2.8	2.7	清掃活動に関してはおおむね達成できている。ただし、全校生徒・全職員での取組に関しては、相変わらず、生徒・職員間の温度差が感じられる。省エネに関しては、水道の使用に関してはのみ前年度とほぼ同じであったが、電気・紙等の使用量は前年度を上回った。今後の課題である。
				特別な清掃活動（大掃除・地域清掃活動等）を年3回以上実施する。	2.9		
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	2.8		
				省エネ運動を推進し、水道・電気・紙等の使用量を前年比5%減に努める。	2.3		
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備を図る。	2.7	2.8	おおむね達成されている。ただし、職員間での温度差も見られるので、全員が意識して、安全確保に努めていきたい。
				日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	2.9		
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	3.0	2.8	パソコン使用のおかげで、ずい分と校務処理が効率よく早くなった。ただし、管理の徹底には、まだ甘いところがあり、個人情報保護の意識を高めていく必要がある。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	2.7		
				諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	2.8		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	総 括	成果と課題	
				年度末			
<b>5 開かれた学校づくり</b>							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	2.9	保護者との連携・協力体制については、おおむね達成されている。今後とも、学年便り、クラス通信、面談等を通して、保護者への連絡、育友会活動への参加及び支援に努めたい。育友会主催のバザーはすばらしい連携のもとで毎年実施されている。	
				育友会総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	3.0		
		育友会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育友会活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	2.8		2.7
				育友会関係の会議への参加率向上に努める。	2.6		
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	各教科や部活動等において、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	2.5	地域や関係機関との連携に関しては、昨年の低い評価をふまえ努力した結果、改善されつつある。他校との情報交換や外部講師の活用については、部活動や図書館活動を通して随分と活発になってきた。今後、さらに一層、外部講師を活用し、教育的効果を高めていきたい。	
				関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	2.3		
				地域等からの苦情等に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善を速やかに行う。	2.7		
		外部講師の活用	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、平和学習・進路講話・交通講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	2.6		2.6
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報の積極的発信に努める。	2.8	2.7	ホームページの更新は定期的に行い、学校の最新情報をいち早く伝えるようにしているので、外部からの評価も高い。さらに努力していきたい。
				学校情報の内容（諸活動）が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	2.6		
		学校情報の広報	学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する	学校方針や具体的な教育活動の内容について、適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校だよりを年1回以上発行する。	2.7	2.9	
				ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い、中学生の進路選択に関する資料を提供する。	2.8		
				学校の特色を感得・理解する機会としての体験入学（オープンスクール）を積極的に開催し、入学希望者の増加に努める。	3.1		